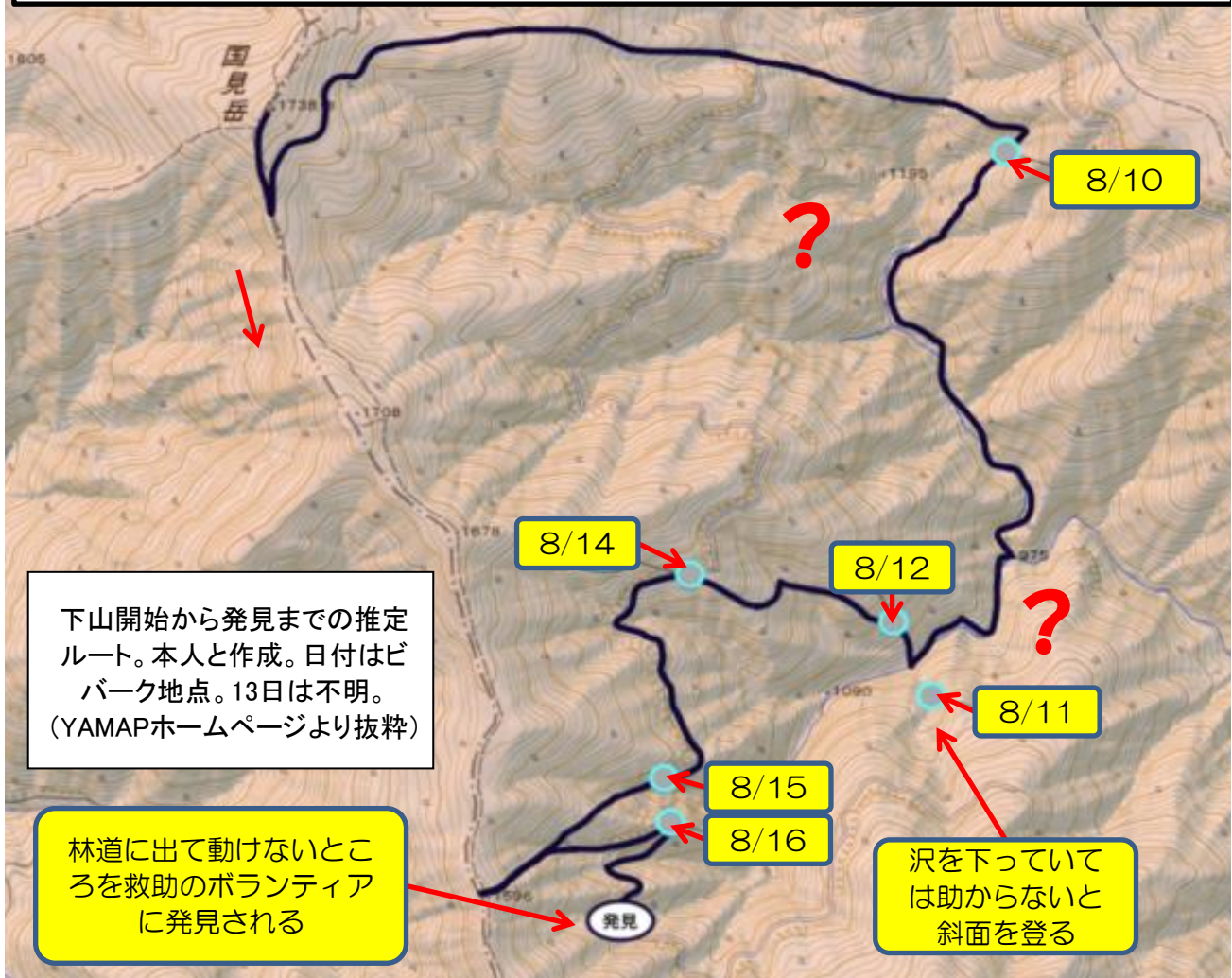


国見岳遭難(2022年8月)

38歳男性。3人で登山するも1人で下山開始。下りで道に迷い6日間彷徨う。妻が心配になり情報収集のためツイッターに投稿。5日目警察の捜索は打ち切られたが、6日目捜索ボランティア(ツイッターを見て協力)に発見され助かった。



解説

登りは3人、下りは単独で下山。途中で「鹿の写真」を撮るため登山道を外れ、戻るに戻れなくなりなんとなく沢を下る。途中で、滑落し意識を失い気づくと夜が迫っていた。遭難2日目、携帯で連絡するも電波が届かず。遭難3日目、水もなくなる。登り返す決心をして急な斜面を登り返す。とうとう携帯電話の電池も切れ、途中で体力もなくなり平らな所で動けなくなった。遭難4日目の夕方やっと林道に出る。遭難5日、林道を歩くが途中で歩けなくなる。警察の捜索は今日で打ち切り。遭難6日目、捜索ボランティアに発見され、救助された。

妻の行動に注目。友達10人しかいないツイッターで情報や助けを求めた。SNSで情報が拡散され、警察が捜索を打ち切った後だったが、ボランティアに発見された。今回の事例は、どうして道迷い遭難に陥ったのかというコメントは省略するが、現在の情報化社会ではSNSが有効であることを改めて知らされた。

家族としては、どんな方法でもよいので助かってほしいと思うもの。また、周りの皆さんも何とかしたいと思うもの。偶然なのかもしれないが皆の思いが通じた事例であった。